

平成 19 年度教員個人評価の集計・分析

シンクロトロン光応用研究センター

1. 個人評価の実施状況

1) 対象教員数は5名

個人評価実施者数は5名

実施率は100%

2) 教員個人評価の実施概要（評価組織の構成、実施内容、方法など）

添付資料①センター個人評価実施規則

②個人目標申告書などのフォーマット

2. 評価領域（教育、研究、国際・社会貢献、組織運営、他）別の集計・分析と自己点検評価

(1) 教育の領域

1) 評価項目ごとの実績集計と分析は、センターの人員が少ないために統計的な意味をもたないために行っていない

2) 教育の領域における教員の活動評価集計と分析

教育、研究、国際・社会貢献、組織運営、のいずれの領域においてもセンター教員の活動レベルは高い

3) 教育の領域におけるセンターの自己点検評価

センター教員は、工学系研究科の電気電子専攻ならびに物理科学専攻の指導教官に配置されており、工学系大学院修士課程ならびに博士課程後期の学生を指導するとともに、学部4年生に対する卒研指導への協力も行っている。理工学部などの教育方針に協力しつつ、さらに学科や専攻を超えた広い視点を有する学生を育てるべく、教育指導している。大学院講義においては、e-learning方式を導入するなど、新しい教育方式の導入にも協力している。全学的な主題科目や電気電子工学科での学部生への講義や実験指導などの要請にも応えている。H19年度には後期博士課程の学生を指導し、博士号を取得させた。

このようにセンター教員の教育領域での貢献は高く、将来の大学構想に有意義な実績を残している。

(2) 研究の領域

1) 評価項目ごとの実績集計と分析は、センターの人員が少ないために統計的な意味をもたないために行っていない

2) 研究の領域における教員の活動評価集計と分析

教育、研究、国際・社会貢献、組織運営、のいずれの領域においてもセンター教員の活動レベルは高い

3) 研究の領域におけるセンターの自己点検評価

センターは、シンクロトロン光利用に関する世界的な最先端のビームラインを有しており、その光電子分光装置は、高エネルギー分解、角度分解、時間分解の性能を有する世界的に特色有る装置である。またレーザー 2 光子による高速時間分解光電子分光法は独創性が高い。また、レーザーとシンクロトロン光の組み合わせによる新しい分光法の開発やそれを用いた励起状態の研究は科学研究費補助金の支援を受けて成功裏に進行した。これらの成果の一部は、世界的に評価の高い専門誌に発表し、各分野からの関心も高く、国際会議でも高く評価され、注目された。

半導体生成に関する成果は世界的評価が高く、厳しい査読のなされる論文誌に毎年平均 10 報程度が掲載されている。研究内容が高く評価されて、科学研究費補助金が採択されるとともに、半導体デバイスの実用化を目指した研究開発が、NEDO プロジェクト（平成 17 年度産業技術研究助成事業）として進行している。

文部科学省の地域連携融合事業「シンクロトロン光を利用した佐賀県との一体化による先導的工学的基礎研究」が平成 17 年から開始し、平成 19 年にその取りまとめを行った。また、ナノテク支援事業を H19 年度から開始し、学外ユーザーへの研究支援を実施した。

したがって、研究の領域におけるセンター教職員の評価は言うまでも無く極めて高い。

(3) 国際・社会貢献の領域

1) 評価項目ごとの実績集計と分析は、センターの人員が少ないために統計的な意味をもたないために行っていない

2) 国際・社会貢献の領域における教員の活動評価集計と分析

教育、研究、国際・社会貢献、組織運営、のいずれの領域においてもセンター教員の活動レベルは高い

3) 国際・社会貢献の領域におけるセンターの自己点検評価

センターが高い研究レベルと活発な研究活動ならびに最先端のシンクロトロン光利用設備などを有することから、中国上海交通大学複合材料研究所、中国上海応用物理学研究所、韓国浦項放射光研究所、ロシアクリャトフ放射光研究センター、英国リバプール大学表面科学センターなどと、協力連携協定を締結している。これらに基づき、共同研究や連携融合事業が推進され、将来の事業提案も行われた。

佐賀大学シンクロトロン光応用研究センターは、その経緯から分かるように佐賀大学の社会的貢献の証そのものである。センター教員ならびに協力教員は、自分達自身の研究だけでなく、佐賀県が進める九州シンクロトロン光研究施設整備事業において、佐賀県を支援してきた。また、産官学連携を目途に研究成果の社会的文化的経済的な貢献を意識したプロジェクト提案も行われ、連携融合事業やナノテク事業、受託研究などを実施した。

このように、国際・社会貢献の領域における個々のセンター教職員ならびに一致協力した形での貢献度は極めて高いと評価される。

(4) 組織運営の領域

1) 評価項目ごとの実績集計と分析は、センターの人員が少ないために統計的な意味をもたないために行っていない

2) 組織運営の領域における教員の活動評価集計と分析

教育、研究、国際・社会貢献、組織運営、のいずれの領域においてもセンター教員の活動レベルは高い

3) 組織運営の領域におけるセンターの自己点検評価

センターは運営委員会に外部委員が参画しているとともに各種委員会には学外からの委員の協力を得ているなど公開性が高い運営が行われている。また、早稲田大学を含む九州地域の大学間連携会議などを継続して開催するなど、常に学外との連携と将来発展を意識した組織運営が行われている。

これらは少数にもかかわらず、センター教職員の努力の結果であり、高く評価される。